



2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年2月1日
上場取引所 東

上場会社名 株式会社DTS
 コード番号 9682 URL <https://www.dts.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 北村 友朗
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理部長 (氏名) 春木 健男 (TEL) 03-3948-5488
 四半期報告書提出予定日 2023年2月14日
 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の連結業績（2022年4月1日～2022年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する 四半期純利益 | |
|---------------|--------|------|-------|-----|-------|-----|----------------------|-----|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 2023年3月期第3四半期 | 75,535 | 12.9 | 8,161 | 8.2 | 8,291 | 8.3 | 5,427 | 4.1 |
| 2022年3月期第3四半期 | 66,928 | - | 7,545 | - | 7,658 | - | 5,212 | - |

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 5,691百万円 (13.1%) 2022年3月期第3四半期 5,033百万円 (-%)

| | 1株当たり 四半期純利益 | 潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益 |
|---------------|-----------------|----------------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 2023年3月期第3四半期 | 122.58 | - |
| 2022年3月期第3四半期 | 114.53 | - |

(注) 「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を前第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年3月期第3四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっており、対前年同四半期増減率は記載していません。

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 |
|---------------|--------|--------|--------|
| | 百万円 | 百万円 | % |
| 2023年3月期第3四半期 | 75,689 | 59,937 | 77.6 |
| 2022年3月期 | 79,116 | 62,133 | 78.4 |

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 58,771百万円 2022年3月期 62,018百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|--------------|--------|--------|--------|-------|--------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 2022年3月期 | - | 30.00 | - | 40.00 | 70.00 |
| 2023年3月期 | - | 50.00 | - | | |
| 2023年3月期（予想） | | | | 70.00 | 120.00 |

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

(注) 2023年3月期中間配当金は20円、期末配当金は30円、それぞれ創立50周年記念配当を含んでいます。

3. 2023年3月期の連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属 する当期純利益 | | 1株当たり 当期純利益 |
|----|---------|------|--------|-----|--------|-----|---------------------|-----|----------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 105,000 | 11.2 | 11,400 | 1.8 | 11,600 | 1.7 | 7,950 | 1.2 | 180.26 |

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

（注）詳細は、[添付資料] 10ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

| | | | | |
|---------------------|------------|-------------|------------|-------------|
| ① 期末発行済株式数（自己株式を含む） | 2023年3月期3Q | 47,590,832株 | 2022年3月期 | 49,072,632株 |
| ② 期末自己株式数 | 2023年3月期3Q | 3,993,476株 | 2022年3月期 | 4,002,622株 |
| ③ 期中平均株式数（四半期累計） | 2023年3月期3Q | 44,271,902株 | 2022年3月期3Q | 45,515,800株 |

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

なお、上記業績予想に関する事項は、[添付資料] 5ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

2. 当社の四半期連結財務諸表に掲記される科目その他の事項の金額は、従来、千円単位で記載していましたが、第1四半期連結会計期間および第1四半期連結累計期間より百万円単位で記載することに変更しました。

なお、比較を容易にするため、前連結会計年度および前第3四半期連結累計期間についても百万円単位で表示しています。

○添付資料の目次

| | |
|------------------------------------|----|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 経営成績に関する説明 | 2 |
| (2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 | 5 |
| 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 | 6 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 6 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | 8 |
| 四半期連結損益計算書 | |
| 第3四半期連結累計期間 | 8 |
| 四半期連結包括利益計算書 | |
| 第3四半期連結累計期間 | 9 |
| (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 | 10 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 10 |
| (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) | 10 |
| (四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) | 10 |
| 3. その他 | 10 |
| 生産、受注及び販売の実績 | 10 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものです。

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が残るものの、持ち直しの動きがみられました。先行きについては、世界的な金融引締め等が続く中で、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっています。また、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要があります。

このような状況下において当社グループは、2030年に向けた経営ビジョン「Vision2030」を策定しました。

IT市場や技術、ESG等の環境変化を捉え、既存SIビジネスモデルの進化に加えてデジタル、ソリューションおよびサービスビジネスやそれらを実現する人材などへの積極的な投資により、新たな成長モデルを構築し、社会的価値・経済的価値の創出という両輪でさらなる企業価値の向上を目指します。

その実現に向け、「提案価値の向上」、「SI×デジタルのコンビネーション」、「新規領域・グローバルへの進出」、「ESGへの取り組み強化」、「自社経営基盤の改革」を重要課題に設定し、取り組みを進めていきます。

■「提案価値の向上」「SI×デジタルのコンビネーション」

提案価値の高度化に向けて現場と営業の連動性を高めるため、2022年4月、営業本部に集約していた営業推進機能を各事業本部等に移管しました。

2022年10月、「ServiceNow ビジネス推進担当」を設置し、ServiceNow®（サービスマウ）を活用したワークフローのデジタル化や連携していない複数システムの統合など、IT戦略立案から運用保守までトータルサポートするITサービスを開始しました。

また、データ活用に特化したソリューションの第1弾として、2022年5月、米社Snowflake Inc.よりSELECT（セレクト）パートナー認定を受け、同社製品である「Snowflake（スノーフレイク）」の販売を開始しました。

第2弾として、2022年7月、生産管理パッケージ「mcfame 7 SCM/PCM（エムシーフレーム）」（注1）の取り扱いを開始しました。データ活用のためのクラウドプラットフォームであるSnowflakeと既存の工場IoTソリューションを組み合わせることにより、連携していないデータの統合や共有を実現し、製造業の課題解決をサポートしていきます。

第3弾として、2022年11月、データ活用の高度化を実現するためのビジネス・インテリジェンスソリューション「Geminiot（ジェミニオ）」と製造業データ活用ソリューション「Pasteriot.mi（パステリオ エムアイ）」の販売を開始しました。

これらデータ活用ソリューションやこれまで培った業務ノウハウにより、顧客のビジネス課題解決や新たなビジネス機会の創出を可能とする「DTS DataManagement Solution」（DTS DMS）に発展させていきます。

「フォーカスビジネス」（注2）を、当社の成長領域として取り組みを強化していきます。なお、中期経営計画では、2025年3月期までに売上高に占めるフォーカスビジネス売上高の比率40%を目標として推進しています。当第3四半期連結累計期間のフォーカスビジネス売上高比率は39.1%となり順調に推移しています。

（注1）mcfame 7 SCM/PCM

mcfameは生産・販売・在庫・原価管理等の各種機能を提供し、組立加工からプロセス製造、個別受注生産まで対応可能な製造業向けSCM（サプライチェーンマネジメント）パッケージ。1996年の販売開始から世界17か国2,000サイト、1,000社以上の導入実績を誇る、製造業デジタルソリューション。

（注2）フォーカスビジネス

デジタルBiz・ソリューションBiz・サービスBizの3つの成長エンジンで構成される、今後注力していくビジネス領域。

■「新規領域・グローバルへの進出」

2022年11月、米国ITサービス企業Partners Information Technology社とより強固な連携を図り、米国事業を強化するため、同社株式の51%を取得しました。

今後も主要な顧客である金融機関のみならず、様々な業界に向けてDXなどのソリューション系ビジネスを強化していきます。

■「ESGへの取り組み強化」

当社は、取締役の職務執行の監査等を担う監査等委員を取締役会の構成員とすることにより、取締役会の監督機能を強化し、さらなる監視体制の強化を通じてより一層のコーポレート・ガバナンスの充実を図るため、監査役会

設置会社から監査等委員会設置会社へ移行しました。

また、当社は第50回定時株主総会后、取締役13名のうち、独立社外取締役が7名となり過半数を占めるとともに、女性取締役は2名となりました。今後も取締役会の独立性およびダイバーシティの向上に努めていきます。

企業を取り巻く環境が大きく変化する中、持続可能な社会の実現と企業の持続的成長を両立していくことが重要な経営課題であるとの認識に立ち、当社グループの環境・社会への取り組みをより一層強化するため「サステナビリティ委員会」を新たに設置しました。さらに、ESG活動をより一層進めるとともに、全社横断的な活動の強化を図るため、ESG推進部を新設しました。

2022年8月、2022年度(2022年8月31日から2023年8月30日)の「JPX 日経インデックス400」(注1)の構成銘柄として選定されました。

2022年11月、健康企業宣言東京推進協議会より健康経営の取り組みにおいて一定の成果を上げた企業として「健康優良企業・金の認定」を3年連続で更新しました。

2022年12月、本社(エンパイヤビル)で使用する全ての電力を、100%再生可能エネルギー(以下:「再エネ」)化しました。

なお、再エネ電力の調達は、エンパイヤビルの運営・管理を行っている東京建物株式会社と連携して調達したトラッキング付非化石証書(注2)を活用しています。

(注1) JPX 日経インデックス400

資本の効率的活用に加えてコーポレート・ガバナンス強化の取り組みなど、グローバルな投資基準に求められる諸要件を満たした、「投資者にとって投資魅力の高い会社」で構成される株価指数。

(注2) トラッキング付非化石証書

非化石電源由来の電気が有する「非化石価値(環境価値)」が証書化され、発電所所在地などの属性情報(トラッキング情報)が付与されたもの。

■ 「自社経営基盤の改革」

監査等委員会設置会社移行に伴い、当社は、意思決定の迅速化を図るため、取締役会の委任範囲の変更などの取締役会規則および業務執行に関する権限などの組織関連規程を改定しました。

今後もスピード経営を実現するため、権限移譲や機構改革を推進していきます。

■ 「株主還元など」

成長投資の機会、資本の状況および近時の株価を含む市場環境などを総合的に勘案し、資本効率の向上ならびに株主への一層の利益還元を図るため、2022年5月から9月に1,481,800株の自己株式を取得しました。また、2022年10月、上記で取得した自己株式全株を消却しました。

さらに、中間配当は、1株当たり50円(50周年記念配当20円を含む)としました。

■ 「譲渡制限付株式交付制度の導入」

中長期的な企業価値の向上を図るインセンティブとともに、社員のオーナーシップ意識醸成を目的として、譲渡制限付株式交付制度を導入しました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、755億35百万円(前年同期比12.9%増)となりました。

売上総利益は、売上高の増加により145億54百万円(前年同期比10.1%増)となりました。

販売費及び一般管理費は、63億93百万円(前年同期比12.6%増)となりました。売上総利益が増加し、営業利益は、81億61百万円(前年同期比8.2%増)、経常利益は、82億91百万円(前年同期比8.3%増)となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、経常利益の増加などにより、54億27百万円(前年同期比4.1%増)となりました。

(単位:百万円)

| | 連結 | |
|------------------|--------|----------|
| | | 対前年同期増減率 |
| 売上高 | 75,535 | 12.9% |
| 営業利益 | 8,161 | 8.2% |
| 経常利益 | 8,291 | 8.3% |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 5,427 | 4.1% |

<売上高の内訳>

(単位：百万円)

| | 連結 | 対前年同期増減率 |
|----------------|--------|----------|
| | | |
| 業務&ソリューション | 29,972 | 13.3% |
| テクノロジー&ソリューション | 23,830 | 11.2% |
| プラットフォーム&サービス | 21,732 | 14.1% |
| 合計 | 75,535 | 12.9% |

各セグメントにおける営業概況は、次のとおりです。

業務&ソリューションセグメント

金融業や情報通信業を中心にクラウド関連の案件などが好調に推移し、売上高は299億72百万円（前年同期比13.3%増）となりました。

フォーカスビジネスへの取り組みでは、「クラウドアーキテクチャーベースでのAP開発力強化」、「アジャイル/ローコード開発への対応力強化」および「業界特化ソリューション・サービス拡大・さらなる創出」などに努めています。

業界特化ソリューション・サービスとして、国際基準に準拠したマネー・ローンダリング対策システム「AMLion（アムリオン）」の取引モニタリング機能に加え、金融商品スクリーニング機能の提供を開始しました。

また、三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社様より、マネー・ローンダリング及びテロ資金供与対策業務における経済制裁リスト・ネガティブニュース照合業務に「AMLion」を採用いただきました。

今後も金融のあらゆる業態のコンプライアンスチェック業務の高度化・効率化に貢献していきます。

テクノロジー&ソリューションセグメント

ERPなどのパッケージソリューションや組込み関連などが好調に推移し、売上高は238億30百万円（前年同期比11.2%増）となりました。

フォーカスビジネスへの取り組みでは、クラウドビジネス技術の強化およびビジネスモデルの変革、パッケージ販売拡大に向けた機能強化、ERPビジネス拡大強化、およびエッジAIとサイバーセキュリティ技術の確立などに努めています。

2022年9月、住空間のVRを活用したオンライン商談の実現、意匠デザインの強化、および法改正に伴う設定変更に対応できる機能を拡充した「Walk in home 2022」の販売を開始しました。また、「Walk in home」とのデータ連携や営業プロセスから施工、アフター管理までをサポート、現場監督の業務負担軽減などを実現した「Walk in home CUMOE（ウォークインホーム クモエ）」の販売を開始しました。

加えて、住宅関連業務のさまざまな機能を搭載し、情報の可視化を実現できる、住宅建設業界向け基幹システム「HOUSING CORE（ハウジング コア）」の提供を開始しました。

今後もハウジングソリューションを提供し、住宅・建設業のDX化に貢献していきます。

さらに、米国のインターネット・セキュリティ標準化団体が策定したセキュリティガイドラインに準拠したアマゾンウェブサービス（以下：AWS）のセキュリティ対策の導入や運用を実現するため、「AWS セキュリティマネージドサービス」の提供を開始しました。

プラットフォーム&サービスセグメント

プロダクト案件や運用基盤設計・構築案件の伸長などで、売上高は217億32百万円（前年同期比14.1%増）となりました。

フォーカスビジネスへの取り組みでは、当社のReSM/ReSMplusを中心とした運用サービスメニューの拡大、HybridCloud、Data Management等の強化・拡販、およびネットワークインテグレーションビジネスの推進などに努めます。

「ReSM plus」をとおして、中堅企業の生産性向上と企業全体でのワークスタイル変革に貢献するため、中堅企業のDXや業務支援に強みを持つ株式会社総合キャリアオプションと「ReSM plus」の販売代理店契約を締結しました。

(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想については、当第3四半期連結累計期間の売上高、受注残高の状況およびPartners Information Technologyの新規連結などにより、当初の連結業績予想に対し増収の見込みとなったため、2022年4月28日に公表した通期の連結業績予想を次のとおり修正しました。

【連結業績】

(単位：百万円)

| | 前回発表予想 (A) | 今回修正予想 (B) | 増減額 (B - A) | 増減率 (%) | (ご参考) 前期実績 |
|---------------------|---------------|---------------|----------------|---------|---------------|
| 売上高 | 100,000 | 105,000 | 5,000 | 5.0 | 94,452 |
| 営業利益 | 11,400 | 11,400 | — | — | 11,196 |
| 経常利益 | 11,600 | 11,600 | — | — | 11,403 |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | 7,950 | 7,950 | — | — | 7,853 |

【セグメント別売上高】

(単位：百万円)

| | 前回発表予想 (A) | 今回修正予想 (B) | 増減額 (B - A) | 増減率 (%) | (ご参考) 前期実績 |
|----------------|---------------|---------------|----------------|---------|---------------|
| 業務&ソリューション | 38,850 | 40,800 | 1,950 | 5.0 | 36,776 |
| テクノロジー&ソリューション | 32,600 | 34,000 | 1,400 | 4.3 | 29,838 |
| プラットフォーム&サービス | 28,550 | 30,200 | 1,650 | 5.8 | 27,838 |
| 合計 | 100,000 | 105,000 | 5,000 | 5.0 | 94,452 |

(注) この決算短信に記載されている売上高および利益の予想数値は、業界の動向を含む経済情勢、顧客の動向など、現時点で入手可能な情報をもとにした見通しを前提としておりますが、これらは、種々の不確実な要因の影響を受けます。したがって、実際の売上高および利益は、この決算短信に記載されている予想数値とは異なる場合がありますことをご承知おきください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (2022年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日) |
|----------------|-------------------------|-------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 46,120 | 39,876 |
| 受取手形、売掛金及び契約資産 | 17,259 | 17,653 |
| 有価証券 | 1,200 | 998 |
| 商品及び製品 | 1,193 | 1,510 |
| 仕掛品 | 209 | 643 |
| 原材料及び貯蔵品 | 54 | 66 |
| その他 | 1,030 | 1,677 |
| 貸倒引当金 | △24 | △37 |
| 流動資産合計 | 67,044 | 62,388 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | 3,669 | 3,741 |
| 無形固定資産 | | |
| のれん | 209 | 1,383 |
| その他 | 666 | 642 |
| 無形固定資産合計 | 876 | 2,026 |
| 投資その他の資産 | | |
| その他 | 7,531 | 7,538 |
| 貸倒引当金 | △5 | △5 |
| 投資その他の資産合計 | 7,526 | 7,533 |
| 固定資産合計 | 12,072 | 13,300 |
| 資産合計 | 79,116 | 75,689 |

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (2022年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 買掛金 | 6,256 | 6,185 |
| 未払法人税等 | 2,392 | 1,164 |
| 賞与引当金 | 2,726 | 1,517 |
| 役員賞与引当金 | 77 | 57 |
| 受注損失引当金 | 76 | 45 |
| その他 | 4,358 | 5,593 |
| 流動負債合計 | 15,888 | 14,563 |
| 固定負債 | | |
| 退職給付に係る負債 | 832 | 899 |
| その他 | 261 | 288 |
| 固定負債合計 | 1,094 | 1,187 |
| 負債合計 | 16,982 | 15,751 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 6,113 | 6,113 |
| 資本剰余金 | 4,992 | 4,992 |
| 利益剰余金 | 55,418 | 54,082 |
| 自己株式 | △5,342 | △7,534 |
| 株主資本合計 | 61,181 | 57,653 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 609 | 811 |
| 為替換算調整勘定 | 54 | 143 |
| 退職給付に係る調整累計額 | 172 | 162 |
| その他の包括利益累計額合計 | 836 | 1,117 |
| 非支配株主持分 | 115 | 1,166 |
| 純資産合計 | 62,133 | 59,937 |
| 負債純資産合計 | 79,116 | 75,689 |

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日) |
|---------------------|--|--|
| 売上高 | 66,928 | 75,535 |
| 売上原価 | 53,706 | 60,980 |
| 売上総利益 | 13,221 | 14,554 |
| 販売費及び一般管理費 | 5,676 | 6,393 |
| 営業利益 | 7,545 | 8,161 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 25 | 26 |
| 受取配当金 | 80 | 96 |
| その他 | 53 | 62 |
| 営業外収益合計 | 159 | 186 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 20 | 21 |
| 投資事業組合運用損 | 0 | 11 |
| 為替差損 | 18 | 14 |
| その他 | 6 | 8 |
| 営業外費用合計 | 46 | 56 |
| 経常利益 | 7,658 | 8,291 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | — | 0 |
| 特別利益合計 | — | 0 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産除却損 | — | 0 |
| 投資有価証券評価損 | — | 255 |
| 貸借契約解約損 | 1 | — |
| 損害賠償金 | 16 | — |
| 特別損失合計 | 18 | 255 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 7,640 | 8,036 |
| 法人税等 | 2,439 | 2,632 |
| 四半期純利益 | 5,200 | 5,403 |
| 非支配株主に帰属する四半期純損失(△) | △12 | △23 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 5,212 | 5,427 |

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日) |
|-----------------|--|--|
| 四半期純利益 | 5,200 | 5,403 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | △217 | 202 |
| 為替換算調整勘定 | 57 | 96 |
| 退職給付に係る調整額 | △7 | △10 |
| その他の包括利益合計 | △167 | 288 |
| 四半期包括利益 | 5,033 | 5,691 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 5,038 | 5,707 |
| 非支配株主に係る四半期包括利益 | △4 | △15 |

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しています。

3. その他

生産、受注及び販売の実績

当第3四半期連結累計期間において、プラットフォーム&サービス事業における受注高および受注残高が前年同期に比べ、著しく増加しました。これは、大型プロダクト案件や運用基盤設計・構築案件などが増加したことによるものです。

なお、第1四半期連結会計期間において、報告セグメントの区分を変更し、以下、対前年同期増減率については、変更後の区分方法に基づき作成した前年同期の数値を用いています。

(1) 生産実績

当第3四半期連結累計期間における生産実績は、以下のとおりです。

| セグメントの名称 | 生産高 (百万円) | 対前年同期増減率(%) |
|----------------|-----------|-------------|
| 業務&ソリューション | 29,972 | 13.3 |
| テクノロジー&ソリューション | 23,830 | 11.2 |
| プラットフォーム&サービス | 21,732 | 14.1 |
| 合計 | 75,535 | 12.9 |

(注) セグメント間の取引は、相殺消去しています。

(2) 受注実績

当第3四半期連結累計期間における受注実績は、以下のとおりです。

| セグメントの名称 | 受注高 (百万円) | 対前年同期増減率(%) | 受注残高 (百万円) | 対前年同期増減率(%) |
|----------------|-----------|-------------|------------|-------------|
| 業務&ソリューション | 28,388 | 9.2 | 8,781 | 7.8 |
| テクノロジー&ソリューション | 23,052 | 11.0 | 5,864 | 5.0 |
| プラットフォーム&サービス | 23,073 | 22.6 | 10,314 | 36.4 |
| 合計 | 74,515 | 13.6 | 24,960 | 17.2 |

(注) セグメント間の取引は、相殺消去しています。

(3) 販売実績

当第3四半期連結累計期間における販売実績は、以下のとおりです。

| セグメントの名称 | 販売高 (百万円) | 対前年同期増減率(%) |
|----------------|-----------|-------------|
| 業務&ソリューション | 29,972 | 13.3 |
| テクノロジー&ソリューション | 23,830 | 11.2 |
| プラットフォーム&サービス | 21,732 | 14.1 |
| 合計 | 75,535 | 12.9 |

(注) セグメント間の取引は、相殺消去しています。